

静岡市郊外の棚田でお米を作って23年

天岸祥光

(2) 田んぼに生える植物の多様性 (その2)

棚田周辺の植生にも特徴があることに気が付き始めたきっかけは、棚田を始めて3、4年経った頃だろうか。タンポポの写真を撮っていて、ふと日本のタンポポ（トウカイタンポポ）ばかりだな、と思いながらセイヨウタンポポを探しても見つからないので、帰ってからパソコンに入っている過去のタンポポの写真を見ても、セイヨウタンポポらしいのはないことに気が付き、その後も気を付けていたけれど、今までセイヨウタンポポは一本も見つかっていない。そういえば、ヌスビトハギも、巷では外来種のアレチヌスビトハギの方が勢力があるのに、ここでは見つからない。ハルジオン、ヒメジョオン、シロツメクサなどの外来種も全く無い。春の七草のセリ、ナズナ、ゴギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）はあるけれど、巷の畑の雑草の主役である今のホトケノザ（サンガイグサ、世界中に分布）も一本も無い。



ヌスビトハギ

どうやら国道 362 号線から 1.2 キロ入った、400~700 ㍎の山々に囲まれた標高 200~250 ㍎の山間には猛威を振るっている最近の外来種、帰化植物は侵入できないでいるらしいということが、20 年来この植物を観察してきたの結論である。

しかし、在来種でも侵入できていない仲間がいる。例えば不思議に思っているのは、どこにでもあるヘビイチゴがほんの少ししか見当たらない。あるのはほとんど結実しない(専門的には瘦果というらしい)、五葉のオヘビイチゴだけ。これには何かワケがあるのだろうか。



五葉のオヘビイチゴ

キク科のニガナ、オオジシバリ、オオバナニガナ（ハナニガナ）はよく見かけるけれど、ジシバリ（イワニガナ）はどういう訳か見かけない。

イチゴと名の付く草木は前述のオヘビイチゴの他に、クサイチゴ、ニガイチゴ、キイチゴ、フユイチゴなどが普通にある。



ニガイチゴ

クサイチゴ

小さい花で一番よく見るのがシソ科のカキドオシである。他によく見かけるシソ科の花はアキノタムラソウ、キランソウ（ジゴクノカマノフタ）、タツナミソウであるが、セキヤノアキチョウジ、ツリフネソウなどを見つけた時はうれしかった。セキヤノアキチョウジは日陰の地にそこそこ出現する。ツリフネソウは田んぼの西側に割とたくさん出現する。



セキヤノアキチョウジ

ツリフネソウ

小形の花のトキワハゼは見かけるが良く似たムラサキサギゴケは見かけない（どちらもゴマノハグサ科）。



トキワハゼ

アジサイはタマアジサイとコアジサイが田んぼの脇にたくさん現れる。ここのコアジサイの色は素晴らしいと思っている。他のアジサイ類は一切ない。人間の手が入っていないからであろう。



タマアジサイ

コアジサイ

ウツギ（空木）類はいろいろ見ることができる。歌の文句に出てくる匂う垣根の「卯の花」というのはヒメウツギやマルバウツギでしょうが、これらはたくさんある。ウツギの仲間でのこの棚田で最も美しいと私が思っているのが（コ）ガクウツギ。その他ヤブウツギ、コゴメウツギ、ノリウツギなどもある。ハコネウツギやタニウツギはない。



(コ) ガクウツギ



ヤブウツギ

コゴメウツギ

山に行くといろいろなリンドウを楽しめることができるが、この棚田でも数は少ないがよく探すと、次の二種類を見つけることができる。



リンドウ

ツルリンドウ：これは実

棚田に現れる野草で姿と雰囲気素晴らしいと思っているのは、トリアシショウマだ。また、大きな花のヤブデマリが春になってあちこち姿を現してくれると気持ちがあちこち和む。



トリアシショウマ

ヤブデマリ

次のムラサキケマンはどこにでもある野草であるが、ある蝶にとっては重要な存在である。この草には毒があり動物たちはこれを避けるので、そこを利用して幼虫がこの葉を食べられるように近くに卵を産む蝶がいる。モンシロチョウによく似たウスバシロチョウである。2021年にNPOの高橋真弓さん（90歳になりました）がある日ひょっこりこの棚田に現れたので、びっくりしていたら、この蝶を追っかけてここ

まで来たことが分かった。実はこの蝶の名前をその時初めて知ったのであって、高橋さんに会わなければいつまでも白い蝶はモンシロチョウのままであったろう。



ムラサキケマン

この棚田で一番残念なのは紅葉がほとんど見られないことである。その中でわずかに（リュウキュウ）ハゼノキ、ヤマウルシが何本かあって秋には彩を与えてくれている。一方で、溜池の近くに小さな砂防ダムができたおかげで、思いがけずイワタバコが発生したのはラッキーであった。



イワタバコ

ハナイカダ（花筏）という山野草好きに人気のある草木も田んぼの周りに散在している。花筏は雌雄異株で、左の花一つが雌花、いくつも咲いているのが雄花である。



ハナイカダ 左：雌花、右：雄花

この20年間私はこの棚田では見なかったギンリョウソウ（銀竜草）が2023年5月溜池の左上の山斜面いっぱいに見れたのには驚いてしまった。こんなに大量のギンリョウソウを見るのは初めてであった。今年だけなのか、来年も見れるのか、楽しみが増えました。



ギンリョウソウ

最後に、国道362号線から棚田に来る途中に、非常に多い二種類の樹木がある。とても桜とは思えないウワミズザクラと猫が好きな(?)マタタビである。下の写真はいずれも棚田の東側茶畑の川沿いのもの。20年前からあったのでしょうが、いつの間にかこんなに大きく成長して我々の目に触れるようになっていました。



ウワミズザクラ

マタタビ

最近話題になっている「特定外来生物」の内、鳥類のガビチョウやソウシチョウは飛んできて棚田の周辺でよく鳴いているが、オオキンケイギクなどの植物系は全く侵入していない。しかし2023年に国道362号線から棚田に入る側道に沿って猛毒の外来種ヨウシュヤマゴボウが棚田に侵入し始めていることを発見し、見つけた数本を伐採し焼却した。

次回は、棚田の核心である「どんなお米を作っているのか」の話に入りたい。